

池田辰彰氏に日本台湾交流協会台北事務所から記念メダルの贈呈

2020年8月7日（金）、本学会員の玄奘大学応用日本語学科長池田辰彰氏が、日本語教育の分野で日本の大学や企業などと連携した教育活動を実践するかたわら、ラグビーを通じて東日本大震災で被災した岩手県釜石の子どもたちと台湾をつなぐ国際交流活動を長年、続けてこられたことが評価され、（公財）日本台湾交流協会台北事務所から記念メダルが贈呈されました。

その際に『南島史学』第85号に掲載された論文「日本統治時代台湾ラグビー発展史」（平成29年11月発行）が台北事務所代表の泉裕泰氏に渡され、また泉代表を通して森喜朗元首相にも手渡されたそうです。

写真はその時の様子と、森喜朗元首相に渡された論文の抜き刷りです。



台北事務所代表の泉裕泰氏と池田辰彰氏（右）（日本台湾交流協会のホームページ：<https://www.koryu.or.jp/>より転載）

日本統治時代台湾ラグビー発展史
—台湾の中等学校ラグビー史—

池田辰彰*

台湾と日本のスポーツ交流は、2015年に公開された台湾映画「KANO 1931海の向こうの甲子園」でも知られているように日本統治時代から野球を通じた交流が盛んであり、またよく知られている。今でも日本のプロ野球は台湾でも人気があり、日本プロ野球では台湾人選手が活躍し、一方台湾プロ野球には日本人コーチも多数在籍している。しかし日台スポーツ交流で日本統治時代に盛んにおこなわれたのは野球だけではなかった。武術、馬術、陸上競技、ゴルフ、テニス、卓球なども盛り上げられたが、そのなかでもラグビーは比較的盛んであった。1920年に同志社大学を卒業して台湾に戻った陳清忠は、1921年、母校である淡水中学（現淡江中学）に赴任し、そこで台湾で最初のラグビーチームを結成する。同時に台湾全土でラグビーの普及に努めた結果、台北一中（現建国中学）は、全国大会で複数回優勝している。

そこで本稿では、日本統治時代における台湾ラグビーの歴史を、特に二つの中等学校を軸に概観してみたい。二つの中等学校とは、一つは北一中と称された公立の台北第一中等学校（現建国中学）、もう一つはキリスト教系の私立淡水中等学校（現淡江中学）である。

キーワード：日本統治時代、ラグビー、淡水中学、台北第一中学

はじめに

2015年10月、日本中であるスポーツ競技のことが話題になった。ロンドンで開催されていたラグビーワールドカップ大会で、当時世界最強チームの一つといわれていた南アフリカ代表チームに日本代表チームが勝利したニュースである。¹ 1980年代には国立競技場が満員となる5万5千人以上の観客を集めた日本ラグビーであるが、1993年に開幕したサッカーのJリーグ人気と相反す

* 玄奘大学（台湾）応用外語学系 副教授兼系主任

(50)

— 109 —

2020/08/08

森喜朗先生

敬贈

指正

玄奘大学 池田辰彰

令和二年八月

台北

森喜朗元首相に手渡された論文の抜き刷り（池田氏撮影）